

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期目標	金額 (千円)	職位				
I-1-(1)-⑥ 地域など と行政の 連携・協 働による 子育て支 援の推進	1	地域に役立つ公園 づくり事業	みどり・公 園整備課	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指す。計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげる。計画策定後は、翌年から概ね2カ年で再整備を行う。	地域に役立つ公園 づくり事業による 整備公園数	目標	35 公園	24 公園	20 公園	18 公園	—	継続	175,000	171,100	維持	6,825	課長 0.05 人	順調	ワークショップ参加者の年齢層に偏りが見られるため、多世代参加に向け更なる努力が必要である。ワークショップの内容を知らせる「かわら版」の全戸配布や、小学校への公園利用アンケートの実施を行うなど、引き続き、広く地域ニーズを聞き取り、かつ住民相互の理解を深めることに努める。	順調	地域と行政が連携して魅力ある公園づくりに向けて、多世代の参画が必要である。ワークショップの内容を知らせる「かわら版」の全戸配布や、小学校への公園利用アンケートの実施を行うなど、引き続き、広く地域ニーズを聞き取り、かつ住民相互の理解を深めることに努める。
	実績	38 公園	24 公園			—	継続	36,000	20,000	減額	3,075	係長 0.10 人	職員 0.70 人								
I-1-(1)-⑥ 地域など と行政の 連携・協 働による 子育て支 援の推進	2	子どもの安全・成長に配慮した公園 整備事業	緑政課	遊具などの公園施設を活用して、子どもが健やかに成長し、また、犯罪等に巻き込まれない安全・安心に配慮した公園となるよう、専門家の意見を聞きながら、公園整備を進める。	子どもの安全・成長に配慮した公園 整備事業による 整備公園数	目標		0 公園	3 公園	1 公園	—	継続	36,000	20,000	減額	3,075	課長 0.05 人	順調	目標どおり進捗しており、H28の公園整備を持って、モデル事業を終了する。今後は、得られた成果を一般施策に反映させていく。	順調	目標どおり進捗しており、H28の公園整備を持って、モデル事業を終了する。今後は、得られた成果を一般施策に反映させていく。
	実績		0 公園			累計 4公園 (H28年度)	継続	36,000	20,000	減額	3,075	係長 0.10 人	職員 0.20 人								
I-3-(1)-② 教育関係 施設の連 携による 人材の育 成	3	【施策評価のみ】 到津の森公園による学習プログラムの提供	公園管理課	【施策の内容】 小学生を対象とした、動物や自然とのふれあいを通して命の大切さや自然環境の保護の必要性を学ぶプログラムの提供	【施策の指標】 「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態	目標	—	—	—	—	「市民環境力」を高め、環境保全に対する意識が高まった状態	—	—	—	—	—	課長 — 人	—	—	順調	引き続き、小学生及び小学校の教師を対象とした学習プログラムの提供を行う。
	実績	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	係長 — 人				
II-1-(4)-④ 総合的な 災害対策 の推進	4	河川改修事業の推進	水環境課	近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加している。浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を推進する。	浸水被害の低減	目標	—	—	—	—	H45年度に河川毎に計画している降雨（1時間で50～70mm程度）に対応できる状態	継続	1,759,350	1,713,400	維持	86,500	課長 1.00 人	順調	頻発する局地的豪雨などによる浸水被害を抑制するため、引き続き計画的な治水整備に努める。	順調	頻発する局地的豪雨などによる浸水被害を抑制するため、引き続き計画的な治水整備に努める。
	実績	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	係長 1.50 人				
II-1-(4)-④ 総合的な 災害対策 の推進	5	旦過地区まちづくりに伴う河川整備事業	河川整備課	長年市民に親しまれている旦過市場をさらに魅力ある商業拠点とするために、地元と協働で旦過地区まちづくり整備計画を策定し、神嶽川の治水安全度を高める、河川事業を推進する。	神嶽川（旦過地区）の治水安全度向上	目標		—	—	—	概ね50年に一度発生する降雨にも対応できる神嶽川（旦過地区）の治水安全度向上	継続	402,000	420,000	増額	15,950	課長 0.30 人	順調	旦過市場については、平成30年度の再整備着手に向け、今後も地元関係者との合意形成に努める。また、河川改修については、引続き市場対岸（馬借地区）の護岸工事を進める。	順調	旦過市場については、平成30年度の再整備着手に向け、今後も地元関係者との合意形成に努める。また、河川改修については、引続き市場対岸（馬借地区）の護岸工事を進める。
	実績		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	係長 0.50 人				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期目標	金額 (千円)	職位					人数	
Ⅱ-2-(3)-④ 個人の健康づくりを支える環境の整備	6	健康づくりを支援する公園等整備事業	緑政課	公園に高齢者の健康増進に配慮した健康遊具を設置し、運動教室を開催して、利用者を使い方を説明する。継続的にこの健康遊具を利用することにより、高齢者の体力増進に繋げる。また、ウォーキングを通じた健康づくりをサポートする路面表示などを実施する。	高齢者に配慮した健康遊具の設置公園数	—	目標	2 公園	2 公園	1 公園	1 公園	—	継続	16,000	17,000	維持	3,650	課長	0.10 人	順調	健康遊具の設置や路面表示など、引き続き健康づくりを推進する環境整備に努める。	順調	健康遊具の設置や路面表示など、引き続き健康づくりを推進する環境整備に努める。
							実績	2 公園	10 公園									0.10 人					
							達成率	100.0 %	500.0 %										職員				
Ⅲ-1-(1)-③ まち美化活動の拡充	7	ボランティアネットワークの推進（道路サポーター）	道路計画課	市が維持及び管理する道路において、道路清掃・美化などのボランティア活動を行う地域の団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援する。	道路サポーター加入団体数	—	目標	220 団体	225 団体	211 団体	214 団体	—	継続	17,810	17,810	維持	9,400	課長	0.05 人	順調	新規団体の登録を増やすため、既存登録団体と協力してPR活動を行う。また、既存登録団体の登録解除を減らすために、活動しやすい仕組みづくりに継続して取り組む。	順調	高齡化などの理由により解散する団体がある中、制度の見直しも視野に入れて、継続して活動しやすい仕組みづくりを行う。
							実績	196 団体	210 団体									0.17 人					
							達成率	89.1 %	93.3 %										職員				
	8	ボランティアネットワークの推進（公園愛護会）	公園管理課	10名以上の地域住民で組織されるボランティア団体で、公園の美化活動・公園施設の点検や禁止行為の連絡・公園利用者のマナーづくり・市民花壇づくりなどを行い、活動面積に応じて活動費を助成している。	公園愛護会の結成数	—	目標	1,160 団体	1,160 団体	1,160 団体	1,160 団体	—	継続	45,428	45,456	維持	18,135	課長	0.24 人	順調	高齡化・会員数減少などの理由で解散する団体がある中、継続して活動がしやすいように一部制度の見直しを行う。	順調	高齡化などの理由により解散する団体がある中、制度の見直しも視野に入れて、継続して活動しやすい仕組みづくりを行う。
							実績	1,158 団体	1,167 団体									0.45 人					
							達成率	99.8 %	100.6 %										職員				
	9	ボランティアネットワークの推進（河川愛護団体）	水環境課	地域の住民で構成する河川愛護団体に清掃道具購入の費用等となる補助金を交付することにより、美化活動を広げる。また、美化活動に参加することにより、地域の河川を身近に感じ、自分たちの川として愛着を持つような啓発活動へとつなげる。	河川愛護団体数	—	目標	71 団体	68 団体	69 団体	69 団体	—	継続	2,420	2,450	維持	440	課長	0.01 人	順調	後継者不足から活動を断念する団体もあり、これらを引き止めるのは困難であるが、今後も河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持ってもらい、河川愛護団体の結成促進につながるよう努める。	順調	高齡化などの理由により解散する団体がある中、制度の見直しも視野に入れて、継続して活動しやすい仕組みづくりを行う。
							実績	67 団体	67 団体									0.01 人					
							達成率	94.4 %	98.5 %										職員				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期目標	金額 (千円)	職位				
Ⅲ-1-(2)-① 魅力ある生活空間づくり	10	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり	緑政課	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花壇（公共花壇）の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うえるっちゃ！花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進する。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めていく。	市民花壇活動団体数	574団体 (H26年度)	目標 - 団体	- 団体	583 団体	592 団体	628団体 (H32年度)	継続	100,023	80,170	減額	23,150	課長 0.10 人	やや遅れ	市民花壇への加入を推進し、地域に根ざした花づくり活動の場を拡大する。公共花壇は、選択と集中を進め、効果的な都市景観の向上を図る。特別緑地保全地区において都市緑地法第17条に基づく買収申請が提出されている箇所については早期の買収完了を目指す。	順調	魅力ある生活空間づくりに向けて、市民花壇の加入を推進し、地域に根ざした花づくり活動の場を拡大する。また、地域ニーズを公園整備に反映するためにワークショップを開催するが、ワークショップの内容を知らせる「かわら版」の全戸配布や、小学校への公園利用アンケートの実施を行うなど、多世代の参加を求める。
				特別緑地保全地区の買収面積	—	目標 2,400 m <sup>2</sup>	5,000 m <sup>2</sup>	12,092 m <sup>2</sup>	3,000 m <sup>2</sup>	—	実績 2,572 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	達成率 107.2 %	0.0 %	職員 2.00 人						
Ⅲ-1-(2)-② 地域に役立つ公園づくり事業	11	地域に役立つ公園づくり事業	みどり・公園整備課	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指す。計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげる。計画策定後は、翌年から概ね2カ年で再整備を行う。	地域に役立つ公園づくり事業による整備公園数	—	目標 35 公園	24 公園	20 公園	18 公園	—	継続	175,000	171,100	維持	6,825	課長 0.05 人	順調	ワークショップ参加者の年齢層に偏りが見られるため、多世代参加に向け更なる努力が必要である。ワークショップの内容を知らせる「かわら版」の全戸配布や、小学校への公園利用アンケートの実施を行うなど、引き続き、広く地域ニーズを聞き取り、かつ住民相互の理解を深めることに努める。		
					実績 38 公園	24 公園	達成率 108.6 %	100.0 %	職員 0.70 人												
Ⅲ-1-(2)-③ 市民に親しまれる水際線・農山村風景づくり	12	身近に自然を感じる河川整備事業	水環境課	都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことによって、ホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる水辺環境整備事業を行っている。	環境に配慮した護岸整備	—	目標 -	-	-	-	生態系に配慮した整備を行うことで、自然に近い状態	継続	138,000	255,000	増額	25,750	課長 0.50 人	順調	治水対策とのバランスを図りながら、市民が身近に自然を感じられるよう、引き続き環境に配慮した護岸の整備に努める。		
					実績 -	-	達成率 -	-	職員 2.00 人												



【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期目標	金額 (千円)	職位					人数
Ⅲ-1-(3)-② 安心して通行できる身近な道路の整備	13	バリアフリーのまちづくり	道路計画課	高齢者や障害者など、誰もが安全で快適に通行できるよう、道路・公園のバリアフリー化を行い、バリアフリーのまちづくりを進める。具体的には、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの設置などのバリアフリー化を行う。	主要駅周辺地区の主要経路の整備率	目標	88%	89%	90%	91%	—	継続	951,600	858,902	減額	26,150	課長	0.10人	順調	今後のバリアフリーのまちづくりの取り組みは、ハード整備と合わせて、ソフト施策の充実を図ることが重要である。そのため、障害福祉課等の関係部署と連携し、これまで実施してきたバリアフリー点検に加え、その他のソフト施策の充実を図る。	順調	安心して通行できる道路整備に向けて、バリアフリー化及び通学路の安全対策を進める。バリアフリー化に関してはソフト事業の充実を図る。通学路の安全対策については、今年度策定したプログラムを元に改善を図る。
				実績	88%	89%			—	継続						係長	1.00人					
						達成率	100.0%	100.0%									職員	2.00人				
Ⅴ-1-(2)-① 都心のにぎわいづくり	14	通学路の安全対策	道路計画課	登下校中の児童が交通事故に巻き込まれず、安全に安心して通学できる環境を整えるため、教育委員会や学校関係者、警察と一体となって、さらなる通学路の安全対策を推進する。	通学路の危険箇所における対策完了箇所数	目標	—	—	—	—	—	継続	805,000	874,000	増額	26,150	課長	0.10人	順調	通学路の安全対策の取組を強化していくため、今年度、「通学路交通安全プログラム」の策定した。これを受けて、情報の共有化等のための仕組みづくりや、関係者が連携して行う合同点検のルール化などの業務改善を図る。		
					実績	165箇所	82箇所										係長	1.00人				
						達成率	—	—									職員	2.00人				
Ⅴ-1-(2)-② 文化・交流、居住機能を重視した副都心づくり	15	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進	道路計画課	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進する。	歩いてみたくなる歩行空間を創出	目標	—	—	—	—	歩いてみたくなる歩行空間の創出	継続	1,681,791	1,640,700	維持	61,500	課長	1.00人	順調	小倉駅南北自由通路のリニューアルが着実かつ効果的に実施できるように、地元団体やJR九州等の関係者と連携して引き続き積極的に取り組む。	順調	都心のにぎわいづくりに向けて、引き続き小倉駅南北通路のリニューアル及び旦過地区再整備着手に向けて合意形成を進めていく。また、都心部の公共空間魅力アップや、歩いてみたくなる歩行空間の整備にも取り組む。
					実績	—	—										係長	2.00人				
						達成率	—	—									職員	4.00人				
Ⅴ-1-(2)-② 文化・交流、居住機能を重視した副都心づくり	16	旦過地区まちづくりに伴う河川整備事業	河川整備課	長年市民に親しまれている旦過市場をさらに魅力ある商業拠点とするために、地元と協働で旦過地区まちづくり整備計画を策定し、神嶽川の治水安全度を高める、河川事業を推進する。	神嶽川（旦過地区）の治水安全度向上	目標	—	—	—	—	概ね50年に一度発生する降雨にも対応できるよう、神嶽川（旦過地区）の治水安全度向上	継続	402,000	420,000	増額	15,950	課長	0.30人	順調	旦過市場については、平成30年度の再整備着手に向け、今後も地元関係者との合意形成に努める。また、河川改修については、引続き市場対岸（馬借地区）の護岸工事を進める。		
					実績	—	—										係長	0.50人				
						達成率	—	—									職員	1.00人				
Ⅴ-1-(2)-② 文化・交流、居住機能を重視した副都心づくり	17	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進	道路計画課	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進する。	黒崎駅南北自由通路利用者数	目標	—	—	—	—	H30年度にH24年度比約2,000人/日増	継続	1,681,791	1,640,700	維持	61,500	課長	1.00人	順調	黒崎駅南北自由通路及び黒崎ペDESTリアンデッキの整備が着実かつ効果的に実施できるように、地元団体やJR九州等の関係者と連携して引き続き積極的に取り組む。	順調	副都心のにぎわいづくりに向けて、引き続き黒崎駅南北自由通路及び黒崎ペDESTリアンデッキの整備を行う。
					実績	—	—										係長	2.00人				
						達成率	—	—									職員	4.00人				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)				
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期目標	金額 (千円)	職位					人数			
V-2-(2)-① 広域物流ネットワークの強化	18	自動車専用道路ネットワークの整備	道路計画課	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進する。	朝ピーク時の響灘地区～東田地区間の所要時間	43分 (H21年度)	目標	—	—	—	—	13分 (H39年度)	継続	1,550,000	1,500,000	維持	69,000	課長	1.00人	順調	引き続き、早期供用に向けた計画的な整備を図る。事業費は一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図る。	順調	広域物流ネットワークの強化に向けて、計画的な整備を図る。		
						実績	—	—									係長	2.00人							
							達成率	—	—									職員	5.00人						
V-2-(2)-② 市民の交通利便性の向上と産業活動の支援	19	主要な道路の整備（恒見朽網線など）	道路計画課	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図る。	新門司地区～北九州空港間の所要時間	36分 (H21年度)	目標	—	—	—	—	28分 (H37年度)	継続	4,154,749	4,670,995	増額	217,250	課長	3.00人	順調	暫定供用など、計画的な整備を図る。事業費は一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図る。	順調	市民の交通利便性の向上と産業活動の支援に向けて、計画的な整備を図る。		
						実績	—	—										係長	6.50人						
							達成率	—	—									職員	15.70人						
V-2-(2)-② 市民の交通利便性の向上と産業活動の支援	20	自動車専用道路ネットワークの整備	道路計画課	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進する。	朝ピーク時の響灘地区～東田地区間の所要時間	43分 (H21年度)	目標	—	—	—	—	13分 (H39年度)	継続	1,550,000	1,500,000	維持	69,000	課長	1.00人	順調	引き続き、早期供用に向けた計画的な整備を図る。事業費は一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図る。	順調	市民の交通利便性の向上と産業活動の支援に向けて、計画的な整備を図る。		
						実績	—	—										係長	2.00人						
							達成率	—	—									職員	5.00人						
V-2-(2)-② 市民の交通利便性の向上と産業活動の支援	21	主要な道路の整備（恒見朽網線など）	道路計画課	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図る。	新門司地区～北九州空港間の所要時間	36分 (H21年度)	目標	—	—	—	—	28分 (H37年度)	継続	4,154,749	4,670,995	増額	217,250	課長	3.00人	順調	暫定供用など、計画的な整備を図る。事業費は一層の選択と集中を図り、効率的な事業展開を図る。	順調	市民の交通利便性の向上と産業活動の支援に向けて、計画的な整備を図る。		
						実績	—	—										係長	6.50人						
							達成率	—	—									職員	15.70人						

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期目標	金額 (千円)	職位					人数		
V-3-(1)-② 都市基盤・施設の適正な維持管理	22	都市モノレール長寿命化事業（道路・街路）	道路維持課	北九州モノレールは、昭和60年に開業後、約30年が経過しており、軌道桁やそれを支える支柱等について、経年的な劣化が見られる。このため、劣化対策（耐震対策も含む）を行い、桁や支柱等、構造物の長寿命化や維持管理費の縮減を図り、市民の重要な交通機関であるモノレールの安全性・信頼性の確保を図る。	インフラ構造物の長寿命化を実施することで、モノレールの安全・安心な運行を確保	—	目標	—	—	—	—	完了 (H33年度)	継続	900,810	890,100	維持	57,375	課長	0.75 人	順調	引き続き、計画的な劣化対策、耐震対策を行うことにより、モノレールの安全・安心な運行の確保を目指す。	順調	適正な維持管理に向けて、引き続き計画に沿って長寿命化対策を実施する。	
	23	橋梁・トンネルの長寿命化への計画的な取り組み	道路維持課	市内には、約2,000の橋梁と42本のトンネルがあり、高齢化・老朽化の進展が懸念されている。そこで、従来の対症療法型補修を改め、予防保全型に移行するため、「北九州市橋梁長寿命化修繕計画」(H22.3)及び「北九州市トンネル長寿命化修繕計画」(H25.2)を策定した。本事業は、この計画をもとに、予防保全が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁とトンネルを増加させることで市民の安全・安心を確保する。	主要橋梁の健全度向上による市民の安全・安心の確保	—	目標	—	—	—	—	全主要橋梁の健全度Ⅲ以上 (H31年度)	継続	2,014,860	1,774,000	減額	100,150	課長	1.10 人					順調
				トンネルの健全度向上による市民の安全・安心の確保	—	目標	—	—	—	—	全トンネルの健全度Ⅲ以上 (H33年度)											職員	9.00 人	
VI-1-(2)-② あらゆる主体による環境政策への参加の推進	24	長野緑地を利用した農業体験教室	公園管理課	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。	農業体験教室への参加者数	—	目標	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000 人 (毎年度)	継続	2,600	2,600	維持	1,120	課長	0.03 人	大変順調	引き続き、農業体験教室を実施する。	大変順調	引き続き、農業体験教室を実施することで、環境政策への市民参画を推進する。	
					—	実績	2,243 人	2,447 人										係長	0.04 人					
						達成率	112.2 %	122.4 %											職員	0.05 人				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善														
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)							
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期目標	金額 (千円)	職位					人数						
VI-2-(1)-③ 総合的な緑化・森林整備の実施	25	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり	緑政課	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花壇（公共花壇）の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うえるっちゃ！花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進する。 さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めていく。	市民花壇活動団体数	574団体 (H26年度)	目標	-	団体	-	団体	583	団体	592	団体	628団体 (H32年度)	継続	100,023	80,170	減額	23,150	課長	0.10	人	やや遅れ	市民花壇への加入を推進し、地域に根ざした花づくり活動の場を拡大する。公共花壇は、選択と集中を進め、効果的な都市景観の向上を図る。特別緑地保全地区において都市緑地法第17条に基づく買収申請が提出されている箇所については早期の買収完了を目指す。	やや遅れ	総合的な緑化に向けて、市民花壇の加入を推進し、地域に根ざした花づくり活動の場を拡大する。
							実績	-	団体	574	団体											係長	0.70	人				
							達成率	-	%	-	%											職員	2.00	人				
VI-4-(1)-② 身近に自然を感じる都市づくり	26	身近に自然を感じる河川整備事業	水環境課	都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことにより、ホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる水辺環境整備事業を行っている。	環境に配慮した護岸整備	—	目標	-	-	-	-	生態系に配慮した整備を行うことで、身近な自然を感じる状態	継続	138,000	255,000	増額	25,750	課長	0.50	人	順調	治水対策とのバランスを図りながら、市民が身近に自然を感じられるよう、引き続き環境に配慮した護岸の整備に努める。	順調	治水対策とのバランスを図りながら、市民が身近に自然を感じられるよう、引き続き環境に配慮した護岸の整備に努める。				
							実績	-	-																係長	0.50	人	
							達成率	-	-																職員	2.00	人	



【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期目標	金額 (千円)	職位				
VI-4-(1)-③ 市民と自然とのふれあいの推進	27	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり	緑政課	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花壇（公共花壇）の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うえるっちゃ！花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進する。 さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めていく。	市民花壇活動団体数	574団体 (H26年度)	目標 — 団体	— 団体	583 団体	592 団体	628団体 (H32年度)	継続	100,023	80,170	減額	23,150	課長 0.10 人	やや遅れ	市民花壇への加入を推進し、地域に根ざした花づくり活動の場を拡大する。公共花壇は、選択と集中を進め、効果的な都市景観の向上を図る。特別緑地保全地区において都市緑地法第17条に基づく買収申請が提出されている箇所については早期の買収完了を目指す。	順調	市民と自然とのふれあいの推進に向けて、農業体験教室を継続実施する。また、市民花壇の加入を推進し、地域に根ざした花づくり活動の場を拡大する。
					特別緑地保全地区の買収面積	—	目標 2,400 m <sup>2</sup>	5,000 m <sup>2</sup>	12,092 m <sup>2</sup>	3,000 m <sup>2</sup>	—	実績 2,572 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	達成率 107.2 %	0.0 %	係長 0.70 人	職員 2.00 人				
	28	長野緑地を利用した農業体験教室	公園管理課	計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催する。	農業体験教室への参加者数	—	目標 2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000人 (毎年度)	継続	2,600	2,600	維持	1,120	課長 0.03 人	大変順調	引き続き、農業体験教室を実施する。		
						実績 2,243 人	2,447 人	達成率 112.2 %	122.4 %			係長 0.04 人	職員 0.05 人								
VII-3-(2)-① 東九州地域との連携	29	【施策評価のみ】東九州自動車道建設促進協議会の要望活動	道路計画課	【施策の内容】東九州自動車道建設促進協議会の要望活動	【施策の指標】東九州自動車道の建設促進	—	目標 —	—	—	—	東九州自動車道の建設促進	—	—	—	—	—	課長 — 人	—	—	順調	整備促進に向けて、沿線自治体とより一層協力して活動に取り組む。特に福岡県内の未開通区間である椎田南IC～豊前ICの平成28年春開通に向けた活動に取り組む。
						実績 —	—	達成率 —	—			係長 — 人	職員 — 人								